

## 林 重雄<sup>1</sup>：愛知県渥美半島にオオウスエボシの漂着

Shigeo HAYASHI<sup>1</sup> : *Octolasmis weberi* stranded on the beach of Atsumi Peninsula, Aichi Prefecture, Japan

エボシガイ類は、蔓脚亜綱完胸超目の中での有柄目に分類される(倉谷 2009)。エボシガイ類の多くは流木や軽石、瓶類など海上に浮遊や漂流するものに付着し成長してきたことから(石井 1999)、漂着物愛好家に注目されてきた。エボシガイ類の中でオオウスエボシ *Octolasmis weberi* (Hoek. 1883) は、腔腸動物に固着寄生する生態を持つヒメエボシガイ科の一種で、分布域は相模湾、熊野灘、田辺湾、中国沿岸、マレー群島に及び、水深2~30m付近に生息するウミヤナギ類の骨軸に付着する(弘 1937; 倉持 2008)。

渥美半島の太平洋側には砂浜海岸が連続し、通称片浜十三里と呼ばれている(田原市 2008)。太平洋に面する海岸一帯は、数多くの漂着物が打ち上げられる場所として知られている(林 重雄ブログ)。2018年4月に愛知県田原市で、オオウスエボシの漂着を確認したのでここに報告する。

### 漂着記録

2018年4月21日14時、愛知県田原市谷ノ口海岸(図1)で漂着物の調査を行った。その際、当日の高潮線よりも高い位置にあった漂着物の集中帯上で、木片や種子などの浮力の高い漂着物が点在していた。その中でヤナギウミエラ *Virgularia gustaviana* の骨軸に着生していたオオウスエボシ(図2)を確認した。オオウスエボシは骨軸の上に4個体が付着し、乾燥状態で発見された。その中で最大の個体は図2に示した個体で、乾燥状態で頭状部が16.3mmで、最小の個体は8.7mmであった。乾燥状態であったために体内にある背板、盾板、峰板が浮き上がり、レリーフ状になっていた。背板は先端が尖らずに2箇所陥入が非常に深い、盾板はL字型となり、峰板は強く湾曲していた。(図3)

乾燥状態の色は、頭状部で非常に濃いオレンジ色、柄部でも同様な色を呈していた。また骨軸の漂着していた場所付近から、3個体のオオウスエボシも確認した。それらの柄部にはヤナギウミエラの一部が付着したままだったので、確認できたヤナギウミエラから剥離したものであろう。

オオウスエボシに随伴して打ち上げられた漂着物は少なめで、ヤドカリ類のはさみ脚、木片、オニグルミの種子、ハマダイコンの種子などで、遠方由来の漂着物は確認できなかった。

### 考察

4月21日、谷の口に至近の伊良湖岬の天気は快晴、平均気温18.1℃、南南西よりの平均風速2.3m、満潮は午前8時10分で潮位は149cmであった(気象庁ホームページ)。なお調査日の満潮汀線には漂着物は少なく、新たな遠来の漂着物や南方起源の漂着物は確認できなかった。2018年4月は夏日が確認された日もあったが、4月21日までの間で、北や西からの風が卓越していた日が9日であった(気象庁ホームページ)。また黒潮本流も大きく蛇行していることから南方由来や遠来の漂着物はまだ接近で

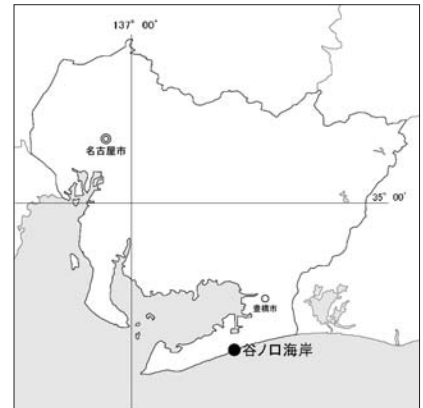


図1 調査地点の位置・愛知県田原市堀切海岸



図2 漂着したヤナギウミエラの骨軸に付着したオオウスエボシ *Octolasmis weberi* (Hoek. 1883)

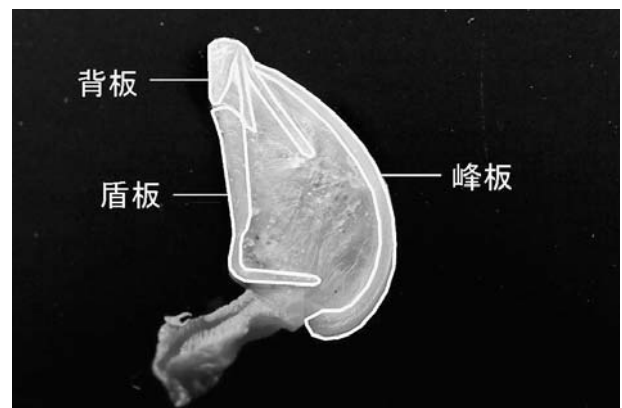


図3 オオウスエボシ *Octolasmis weberi* (Hoek. 1883) の殻板の配置

きずにいると推測できる。そうした条件からもヤナギウミエラに付着したオオウスエボシは、渥美半島の沿岸域に生息していたものが漂着したものと考えられる。

従来の同定では、本種は背板先端が尖らず、背板の2箇所の陥入が深いことから、オオウスエボシの亜種ヤナギエボシとされてきた(弘 1937)。最近の研究によれば同一種が異なった付着生物・付着部位に適応して形態を変化させており、背板は種内変異となっている(倉持 2008)ことからオオウスエボシに同定した。

**謝辞：**本稿をまとめるにあたりフジツボ研究家の倉谷うらら氏には、エボシガイ類の資料や同定のアドバイスをいただいた。北海道教育大学札幌校の鈴木明彦教授には、粗稿を見ていただいた。ここに記してお礼申し上げる。

#### 引用文献

- 林 重雄 ブログ. Beachcomber's Logbook (<http://beachcomb.exblog.jp/>) (2018年6月22日閲覧)  
弘 富士夫 1937. 完胸目 I. 日本動物分類, 9(5), 116pp. 三省堂, 東京.  
石井 忠 1999. 新編漂着物事典. 380pp. 海鳥社, 福岡.  
気象庁ホームページ. (<http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html>) (2018年6月22日閲覧)  
倉持卓司 2008. 相模湾で採集されたオオウスエボシ. 神奈川自然史資料. (29): 185-186.  
倉谷うらら 2009. フジツボ 魅惑の足まねき. 岩波書店, 東京.  
田原市 2008. たはらの海辺の博物誌. 95pp. 田原市, 愛知.

(Received Jun. 26, 2018 ; accepted Jul. 25, 2018)

---

<sup>1</sup> 〒486-0844 愛知県春日井市鳥居松町3-155

<sup>1</sup> 3-155 Toriimatsu-cho, Kasugai City, Aichi 486-0844 Japan